

事業番号	1	シングル女性の生き方や暮らしのブリッジング (架け橋となる支援体制を構築する)事業【神奈川県川崎市】	個別事業費	5, 994 千円
			交付金額	4, 049 千円

地域の実情と課題

- ・人口増加が続いているが、世帯当たりの人員は減少傾向にある。
- ・女性の年齢階級別労働力率では、30代から40代前半にかけて労働力率が低下しM字カーブの底が全国平均より低い。
- ・男女の年齢別所得分布を比べると30歳以降で女性の方が低所得層が多いなど所得格差がある。
- ・DVIに関する相談件数は近年増加傾向にあるが、DVIに関する相談窓口を知らない方が多い。

事業の特徴

- ・孤立・困難を抱えながらも相談や支援につなげることが難しい女性に対し、アウトリーチ型の居場所事業による支援情報の提供、専門的支援窓口へのつなぎに加え、居場所専用のオープンチャットを導入し、交流の場を提供。
- ・居場所事業と既存の相談をつなぐランチ相談会を開催し、相談機関への橋渡しを適切に実施。
- ・心理面で寄り添った支援が行えるよう困難を抱えている女性のための精神科医による面接相談を実施。

事業の効果

- ・居場所事業では参加者数計192人と多くの方が参加し、支援情報の提供や相談支援につなげ、さらに、本事業を通じて市内の関係機関や民間企業との支援のネットワークづくりを広げた。
- ・ランチ相談会では相談者は35人であり、これからの働き方やキャリアの悩みなどの相談を受け、既存の相談先へつなげることができた。
- ・精神科医による面接相談では相談者15人であり、精神的な辛さを解決するための見通しを本人と一緒に立てることができた。

目的・目標

男女共同参画センターが関係機関と連携しながらアウトリーチにより、孤立して支援に繋がりにくい女性や困難を抱えた女性が安心できる居場所づくり、適切な支援に繋げるためのつながりサポート型の相談支援を行う。

・数値目標
男女共同参画センターでアウトリーチによる居場所づくり事業により、新たに支援につながった女性の人数(目標50人→実績36人)

連携団体

【実施の連携】
市民活動団体・民間団体(市内川崎市看護協会、だいJOBセンター(川崎市生活自立・仕事相談センター)、暮らしの保健室等)

【広報連携】

- ・神奈川労働局及びハローワーク川崎・川崎北
- ・神奈川県(市町村男女共同参画行政連絡会、女性活躍推進に関する取組に係る情報交換会)
- ・かわさき男女共同参画ネットワーク(すくらむネット21)

今後の課題

様々な複合的な困難を抱え、孤独・孤立している支援につながりにくい女性に対して既存の事業へのつながりを強化し、シングル女性が困難を抱えるリスクを軽減できるよう、支援者間で協力しながら支援体制を構築することが必要である。

事業の概要

① シングル女性を対象とした孤立・孤独での困難や不安の解消のための居場所

6回

地元の市民活動団体・民間団体と連携しながら、支援へのアクセスをサポートするための場としてアウトリーチ手法により**予約不要**のカフェを企画・運営。民間スペースにて6回開催。川崎市看護協会によるこころからの相談のほか、キャリア相談、人間関係の悩み相談、だいJOBセンター（川崎市生活自立・仕事相談センター）による相談など、複数の種類の相談の中から選んで利用できるようにした。

また、居場所専用のオープンチャットを導入し、居場所事業で知り合った方々がつながりを途切れさせない形でのお知らせや交流の場として利用し、孤立予防に向けた取組を行った。



既存のサービスへのつなぎ

男女共同参画センターの既存の相談や居場所、関連する講座、図書の利用など。

例) 手芸クラブ、働き方・しごと相談

川崎市内の他の行政機関の相談やサービスの利用など。

② ブランチ相談会

4回

居場所事業でキャッチした方々に対し、抱えている悩みをつづきから安心して語ることができるよう既存の相談時間外（夜間）に実施。予約制の個別相談の場で、これからの働き方やキャリアの悩み、こころからの不調や健康についての心配ごと等の相談を受け、必要に応じて、既存の相談先へつなげることができた。



③ 困難を抱えている女性のための精神科医による面接相談

6回

専門家による心理面に寄り添った個別相談として実施し、精神医療の立場から相談者の話を傾聴し状態を理解した上で精神的な辛さを解決するための見通しを本人と一緒に立てることができた。



①
②
③の実施のために

居場所などの本事業を支えるサポーター育成のための研修の企画と実施

相談を支える関係団体とのネットワークづくり・連絡会議